

令和元年度 大阪高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1927年（昭和2年）、旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和のとれた全人教育」を追究すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標である「未来へ、世界へひらく自己の確立」を掲げ、ユニークな進学校を目指します。

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る
- ②社会性と共に基本的生活習慣の確立を図る
- ③課外活動の充実を図る
- ④進路観を掘り起こし、実現を図る

〈目指す学校づくりとして〉

- ①学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望進路の実現を図る学校
- ②生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心して安全な学校
- ③広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校
- ④3年間生活する中で満足度が高くなる学校

2 中期的目標

1 主体的、対話的で深い学びの実現

- ①自ら学ぶ力の育成
- ②共に学ぶ力の向上

2 課題解決力の育成

- ①多様性を受け容れられるホームルームづくりに取り組む
- ②大高文化創造の柱として学校行事の充実に取り組む
- ③生徒会執行部を中心としたより一層の自治活動推進を図る
- ④部活動をはじめとする多様な課外活動への参加促進に取り組む
- ⑤ルール遵守を基盤に、対話を軸とした学習集団の育成に取り組む

3 選択する力の育成

- ①学年目標達成を目指し、教職員が進路支援に向けて幅広い知識習得や外部連携を円滑に行える環境を整える
- ②生徒の興味関心を広め、自らの課題を発見し、その解決に向けての自学自習や探究活動を促進する支援体制を構築する
- ③生徒が自立した社会的職業観を身につけ、進路実現に向けて「繋がる力」「繋げる力」を育成する

4 その他

- ①本校の広報活動の改善を図り、生徒・保護者・教育関係者等へのアプローチを推進する
- ②HPの改良に着手する
- ③耐震化に伴う工事を準じ進める

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和元年 1 1 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○評価アンケート実施要領</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒には、アンケートを2学期期末試験最終日にHRで実施。 ・保護者には、アンケートを郵送、無記名で回答し返送方式。回収率 94.9% ・教員には、各教科の会議で実施、回収。 <p>〔1〕生徒の自己評価</p> <p>○生徒の肯定的回答上位2項目</p> <p>1)〔規律ある学校生活〕高校生に相応しい規律ある生活、マナーを守った集団生活を自分は送れていると思いますか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 85% (昨年より+3%)</p> <p>2)〔役割〕日直や係の仕事、クラス活動や学校行事の中で、自分に与えられた役割をきちんと考え果たそうとしてきたと思いますか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 83% (昨年より+10%)</p> <p>○生徒の肯定的回答下位2項目</p> <p>1)〔対話〕勉強や進路、部活動、学校の様子について、家族の方とよく話をしますか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 73% (昨年と同じ)</p> <p>2)〔学習〕自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 60% (昨年より+7%)</p> <p>〔2〕保護者による学校評価</p> <p>○保護者の肯定的回答上位2項目</p> <p>1)〔安全取組〕登校・下校時指導や緊急メールなど、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分だと思われますか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 93% (昨年より+2%)</p> <p>2)〔総合満足度〕お子様を本校へ入学させてよかったと思われませんか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 92% (昨年より+1%)</p> <p>○保護者の肯定的回答下位2項目</p> <p>1)〔目標・努力〕保護者の目から見てお子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむに頑張っていると思いませんか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 68% (昨年より+3%)</p> <p>2)〔育友会〕育友会(大阪高校保護者と教職員の会)の活動に関心をお持ちですか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 42% (昨年より+2%)</p> <p>〔3〕教員による学校評価</p> <p>○教員の肯定的回答上位2項目</p> <p>1)〔部活動〕生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思いませんか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 95% (+4%)</p> <p>2)〔進路指導〕本校は進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思いませんか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 90% (+7%)</p> <p>○教員の肯定的回答下位2項目</p> <p>1)〔生活習慣〕生徒は、高校生にふさわしい規律ある生活マナーを守った集団生活を送れるようになってきていると思いませんか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 47% (-14%)</p> <p>2)〔自律学習〕生徒は、自分で立てた計画に沿って、自ら主体的に学習に取り組めるようになってきていると思いませんか。</p> <p style="text-align: right;">肯定評価の割合 29% (-6%)</p> <p>【分析】</p> <p>生徒の「規律ある学校生活」、保護者からの「安全取組み」や「総合的満足度」は昨年度同様高評価を維持している。一方で、「学習関係」と「目標設定」の2点は、引き続き推進をしていく必要がある。</p>	<p>第1回</p> <p>◇今年度から「探究コース」が開設されたが、大阪高校は単独校であることの強みを活かしながら、今の大阪高校を象徴する「自立するオモロイ18才」というイメージをもって教育活動を目指している。個々の生徒の力を引き上げるキーとなる「一人ひとりに対する学びの提供やサポート」を様々な取り組みを通して、チャレンジしている。</p> <p>例えば、今までになく希望者が多い夏期講座、昨年に引き続き国公立大、海外大進学への促進、トビタテ留学ジャパン「日本代表プログラム」に2名の選出、大学、専門学校とのパートナーシップ制度を取り入れた総合的学習、アジアの国々をメインとする異文化交流など。特に探究コースでは、メタ認知、クリティカルシンキング、心の理論の3つ観点を授業に導入し、「気づいて掘り下げていく中で基礎の知識が必要となり、基礎に戻り、そこから興味を持ったものを追究していく」という教育の本質を育てることが期待されている。</p> <p>「花を咲かせるために、あまり急がない、卒業後でいい」を合言葉に、根底になる基礎ワークの種を上手く蒔いて、考える楽しさ育て、ここに期待してくる生徒の育成を目指してもらいたい。</p> <p>そのためにも今後、大阪高校の「探究」のステップアップに向けて、教員が今まで以上に本気で魂を込めることが望まれる。</p> <p>第2回</p> <p>◇第2回学校評価委員会は、covid19 感染拡大の影響のため開催されず、令和元年度第1回学校評価委員会議事資料の送付し、ご意見をいただくこととなった。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	(1) 多面的な学力の向上 ア 課題解決型プログラムの導入 イ 夏期講座の充実 (2) 指導力の向上 ア 研修会の充実	ア 2年生総合コース総合的学習の時間でクエストを実施 イ 無学年制を基本とし、教員が教えた内容を提起 ア 大学入試改革への理解を深める	ア 全国大会への出場 イ 講座数と参加生徒数の増加 ア 年間2回の研修実施	ア 導入3年目、初めて全国大会出場ならず(昨年度3チーム) イ 講座数88(昨年度81) 延べ講座受講数 1532(昨年度1495) ア 教員研修を2回実施
2 問題解決力の育成	(1) 特別活動の充実 (2) 帰属意識の向上	ア グループワークを活用したLHRの創出 イ 協働学習と発表を軸とした文化行事創出 ウ 健康と文化を軸とした体育行事の創出 エ 課題解決を提案する生徒会活動の創出 ア 多くの生徒が部活動や課外活動に参加するための提案 イ 学級のいごちを良くするため学級経営をテーマとする研修会の継続 ウ 対話をすることで学校への信頼感を高め、高い出席率を目指す	ア 年間3回の実施 イ 文化祭において協働学習と発表を実施 ウ 生徒がどれだけ主体的に体育祭に関わったか エ 三者協議会の開催 ア 部活動参加60%以上 課外活動3つ以上 イ 学級満足群50%以上 研修会2回以上開催 ウ 出席率98%以上	ア LHR指導案の作成に着手 イ 1年生ではポスターセッションを実施し、大学や専門学校の関係者に参画してもらった ウ 運営・進行の中心が、生徒会執行部とクラブ生によって実施できた エ 生徒会執行部から、活動改善要求プレゼンを教員へ実施 ア 部活動参加率57% オープンスクールスタッフ・応援団 イ 学級満足群クラス平均2・3年：42% 1年：52% (1年のみWEBQU) 研修会1回開催 ウ 出席率97.2%
3 選択する力の育成	(1) 自らの課題を発見する幅広い教養や情報 (2) 地域社会の諸問題に取り組む探究心 (3) 協働やキャリア形成意識のための基礎学力	ア 進路ガイダンス機会を各学年テーマ別に有効活用 イ 学年と校務分掌会議の改革と充実 ウ ラボ事業の提供 エ 入学前教育の充実	ア 校内の人的資源と校外の人的資源の活用機会増加 イ 適切な進路情報提供による面談の充実度 ウ ラボ事業により、社会の諸課題に触れ、自らの課題を設定させる エ 志望進学別課題	ア 外部ガイダンスを各学年別のテーマに沿って年1~2回実施 延べ100校以上の大学専門学校、または企業人が参加 イ 進路検討会 年2回実施(進路分野別) 検討会実施の狙いは、より具体的な進路情報の提案と共有、進路支援体制の充実である。⇒進路決定率94.4%の実現 ウ 卒業後の進路で主体的に学び続ける探究力を育成する エ 文章能力や語学、ビジネスマナー課題を選択実施早期進路決定者の外部講師面談実施(読書レポート含む)
4 その他	①重点中学校群・重点塾の再確認とさらなる広報活動 OSの工夫 ②見やすさ、操作性、即時性の充実 ③2014(平成26)年から始めた耐震工事が2019(令和元)年終了に伴う安全性の広報	ア 出前授業の拡充 イ 教育実践内容を即時性と見える化を意識したタブレット使用の広報活動 ウ 生徒主体の活動の広報 ア 取り組み掲載の即時性の追求 イ メイン画面の見直し、動画の充実、生徒の生の声の掲載 ア 安心安全性確保の広報 イ 新体育館の特徴と利用状況の広報	ア 新規出前授業・研修会 依頼の増加 イ 分かる度合いの増加 ウ 企画運営委員を中心とした活動への意識変化 ア 更新頻度の増加 イ 学内状況の見える化 ア 安心安全な環境づくりへの理解度上昇	ア 資料請求同時期2割増、本校単独の出前、研修担当校としての依頼増加(2校増) イ OS企画運営委員数の増加(27人増) ウ 生き生きとした在校生の活動に来場者の意識変化(驚きと感動) ア HP新鮮度の上昇、HP予約サイトによる訪問数上昇(同時期の約600件増) ア 新体育館の特徴に驚きと使用してみたいという感想の増加